

「八ッ場ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

平成 23 年 11 月 7 日（月）13:00~14:40

さいたま新都心合同庁舎検査棟

発言者：見発表者 19

こんにちは。座らせて発表させていただきます。私はさいたま市に住む●●といます。今回のこの八ッ場ダムに係わる検証の素案に基づいて意見を述べさせていただきます。私はこの検証結果で、利水、治水において八ッ場ダム案が、他の代替案と比べて事業費が圧倒的に安く最適とされました。この検証の主体が八ッ場ダムの事業主体である関東地方整備局であるため、この検証が公正で客観的で科学的になるということはとても云えません。我が国は、人口減少、少子高齢化、莫大な財政赤字に直面しており、ムダな公共事業の見直しから、八ッ場ダム建設の予断なき検証が追求されると、私は歓迎しておりました。しかし 3 月 11 日の東日本大震災や原発事故による復興が最優先課題とされるなか、この検証の目的が失われているのではないかと大いに疑問を持っております。現在の日本経済や社会情勢を考えると、国民の血税は有効に使われなければなりません。浪費は出来ません。今回の八ッ場ダム検証は私は不十分だと思っておりますので、白紙に戻し、もっともっと国民の生活に則した検証が必要であると考えられます。住民参加の第 3 者機関による再検証を求めます。次に素案の中の中身の方なんですけど、4 の方で八ッ場ダム検証に係わる検討の内容というところで、この内容は八ッ場ダム建設事業の洪水の調節、新規利水、流水の正常な機能の維持についての総合評価ですけど、八ッ場ダム建設予定地周辺の地質など安全性の検証が先ほども浅間の噴火のことを述べられた方々の人たち同様、この十分な検証とは云えておりませんので直ちに再検証すべきだと思っております。次に 4 の 1 の方で検証対象ダム事業の点検ということですが、ここで八ッ場ダム残事業費が 1300 億円、工期 87 ヶ月と点検結果を得ている。としているが、試験湛水終了や堆砂計画が妥当であるとは考えられておりません。1 として、埼玉県の荒川上流の中津川に滝沢ダムが出来ました。試験湛水において、国道 140 号、市道、管理道路に亀裂が入り、5 年におよぶ地すべり対策工事が施されました。ダム完成後の地すべり対策費用は 145 億円程と管理事務所で聞いております。10 月 31 日その地すべり対策工事を視察してまいりました。5 年間私たちは毎年この滝沢ダムに関しては視察して来ました。今日、資料にあります写真の方を見て頂きたいと思っております。下の方の写真です。アンカーボルトだらけの滝沢ダム、ダムサイト上流はアンカ工が一面に施されております。これは左岸ですが、右岸も左岸も全てダムサイトの周辺はこのようなアンカーボルト工だらけでございます。八ッ場ダムの予定地では代替地にみなさん生活しています。この滝沢ダムにおいては移転しておりますので、生活はしておりませんが、八ッ場ダムのところでは既に代替地で生活しております。もっともっと慎重に地すべり対策が行われることが当然かと思っております。したがって工期 87 ヶ月としてもとても信じがたいことです。次に 2 として、同じ荒川上流に二瀬ダムが運用されて 50 年ということで、写真を上の写真を見て頂きたいと思っております。既に計画量の 9 割が堆砂しております。ちょうどこの時は水を下げている、掘削等の対策工事が行われるということなので水をちょっと下げているので、この写真の奥に白く光った部分が全て水面でございます。このように写真を見てもわかるようにダムの寿命は考えているより短いと思われまます。そしてこの二つのダムは火山灰が堆積した地すべりを起こしやすい地質です。地元の方と伺ったときに、「僕の小さいとき見た風景と違うんだよ。」というふうに一変するってことを明らかにするような話を伺っております。同様の地質を持つ八ッ場ダム建設を考えた時、残事業費、工期とも妥当ではありません。現実的に工期延長と予算の増額が考え

られますし、堆砂計画も妥当であると私は考えられません。次に4の2として洪水調節の観点からの検討。昭和22年のカスリーン台風から既に60年間が経過しております。利根川の河川改修は進められ、大きな洪水が来ても氾濫の危険性は無くなっております。過去60年間一度もなかったと聞いております。また、2008年6月10日の国会答弁では、同規模の台風が襲来したと仮定したとき、八斗島のピーク流量は、八ッ場ダムがあると無いのでは同じ流量であると述べられ、八ッ場ダムの効果なしというふうに報道もされております。日本学術会議において、検証された結果でも、八ッ場ダムだけでは利根川上流にもっとたくさんのダムが無ければ洪水調節は出来ないと最後に述べられています。また、埼玉県知事は加須市、大利根の利根川の状況について5、6年に1回くらいは、堤防すれすれに水が来ておりますと述べていますが事実誤認です。河川改修は延々と進められ、その結果大きな洪水でも十分な余裕を持って流れるようになっております。堤防の漏水事故が発生したことを問題視し、八ッ場ダムが必要だと主張していますが、漏水は堤防が決壊する危険を示すものであり、その防止は、堤防の強化でしか防ぐことは出来ません。利根川の洪水は八ッ場ダムに頼るのではなく、堤防強化の工事を早急に国に求めることが、利根川流域住民の命と財産を洪水から守ることが出来ます。八ッ場ダムの治水効果があてにならないことを踏まえ、河川整備計画を立て、その上での再検証を求めます。

4の3、新規利水の観点からの検討、利水参画者の水需給の点検を確認し、得られた回答の将来需要を確認のもと事業は継続と判断したとなっておりますが、その根拠に理解が得られません。東京都をはじめ利水予定者は現実と乖離した水需要計画によって、本来は不要な水量を八ッ場ダムに求めています。もう一つ用意したこの表を見て頂くとわかりますように、左が埼玉県の水需要予測でございます。下方修正もされておりますが、既にその修正された予測よりやはり減っております。東京都と同様これだけ予測と実績が乖離しております。利水の検証は各利水予定者の水需給計画を審査しなければなりません。利水予定者の水需給計画をそのまま容認して、要求水量を確保する代替案との比較のみで、富士川からの導水といった時間とコストのかかる実現不可能な代替案により、八ッ場ダム案が最も有利と誘導したように思えます。また地盤沈下を理由に、埼玉県でも地下水の利用が減ってきますが、この表をご覧ください。このように近年最近の10年間で埼玉県において地盤沈下は沈静化しており地下水も保有水源と加えるべきと私は考えます。地下水ほど安全な水はありません。利水予定者の水需要計画を見直した上での検証を求めます。最後に意見として、東日本大震災や台風による自然の猛威で、多くの犠牲者や被害を受けた我が国は、これまでの考え方を大きく変えざるをえません。ダム案を最も有利と導きましたが、台風12号では近畿地方のダムは、洪水調節機能を失い役に立たなかったと聞いています。私は、八ッ場ダム貯水池の地すべりや代替地の安全性について、特に危惧しております。八ッ場ダムは取り返しのつかない災害を誘発する危険性があります。今まで私はそれぞれに再検証を求めています、本来ならば検証以前に八ッ場ダムの即刻の中止を求めます。

以上